

# 治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町 2-7-5(砂防会館内)  
電 話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664  
ホームページ <http://zensuiren.org/>  
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp  
編集・発行 椿本和幸



オープンカフェによる水辺のにぎわい(広島市京橋川)

## ● 目 次

九州地方治水大会の開催について(ご案内) .....	2
中部地方治水大会のご案内 .....	5
四国地方治水大会のご案内 .....	8
北陸地区治水大会のご案内 .....	11

# 九州地方治水大会の開催について（ご案内）

平成 28 年 10 月 18 日(火) 13:30 ~  
佐賀市 ホテルグランデはぐくれ  
佐賀県県土整備部河川砂防課

平成 28 年度の九州地方治水大会の事務局を担当します佐賀県から、九州地方治水大会のご案内をさせていただきます。関係各位の多数のご参加をお願いいたします。

## 佐賀県のすがた

佐賀県は九州の北西部に位置し、東は福岡県、西は長崎県に接し、北は玄海灘に南は有明海に面しています。

東京までの直線距離は 900km、大阪までは約 500km であるのに対し、朝鮮半島までは約 200km ならずと近接しており、大陸文化の窓口として歴史的、文化的に重要な役割を果たしてきました。

県北部は脊振、天山山地で占められ、北西部は松浦・杵島半島の丘陵地が、南西部は急峻な多良岳山地の裾野にできた扇状地が広がっています。また、県東部および南部は、筑後川や六角川等の河川から流出した土砂の堆積や有明海の干拓によりできた広大な佐賀平野が開け、都市部や穀倉地帯を形成しています。



日本一の干満差を誇る有明海

## 河川の現況

級 別	水系	河川数	延長(km)	備 考
一級	国管理	4	24	筑後川、嘉瀬川 六角川、松浦川
	県管理		280	
二級	県管理	60	174	509
計		64	461	1593

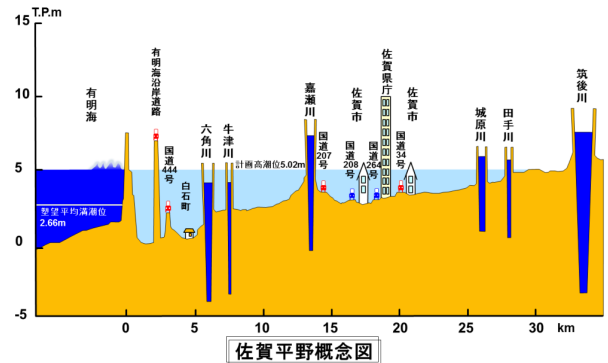
佐賀県は、佐賀平野に代表される広大な低平地を有し、洪水時の河川水位に比べ地盤が低い地形のため、河川が氾濫した場合には広域的かつ長時間にわ

たり浸水が続き、甚大な被害につながりやすく、また、内水被害も生じやすい等水害の危険性が高い条件下にあります。

戦後の主な水害としては、昭和 28 年 6 月、昭和 47 年 7 月、昭和 55 年 8 月、昭和 57 年 7 月、平成 2 年 7 月洪水が挙げられ、近年においても平成 21 年 7 月、平成 24 年 7 月の洪水において床上や床下浸水等の甚大な被害を受けています。

特に昭和 28 年 6 月洪水では、筑後川本川の水位が洪水により上昇し、各所で堤防が決壊し辺り一面を泥海と化したという未曾有の大水害であったことが記録されています。

これらの水害を受けて、これまで激特事業や河川改修事業に取り組んでいるところですが、いまだ治水安全度が確保された状況とはほど遠く、地域住民が安全で安心して暮らせるような社会を実現するためにも、治水対策を着実に進め、早急に治水安全度の向上を図ることが急務となっています。



## 現在の取り組み状況

県都佐賀市では、毎年のように浸水被害が起きており、都市機能の低下等の住民生活に支障をきたしています。

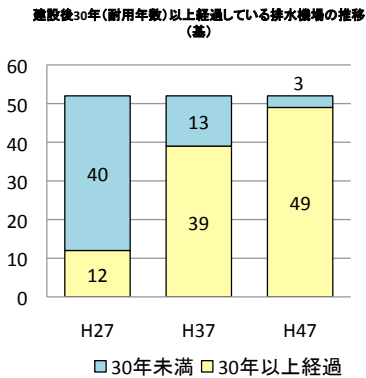




佐賀駅北口の浸水 H26.7 (佐賀市)

このため、「佐賀市排水対策基本計画」を定め、河川改修、雨水幹線、ポンプの整備等、既存施設の操作連携、流域対策(お堀貯留、農業用排水路の事前放流等)、浸水標尺や、防災出前講座、土のうの提供等、住民と行政が一体となって、浸水対策を実施しており、平成 27 年 2 月に九州で初めて 100mm/h 安心プラン登録されました。

また、佐賀平野の低平地特有の内水被害や高潮被害に対処するためにポンプ場、防潮水門等の整備に取り組み、県管理排水機場の設置数(52 施設)は全国 1 番となっています。しかし、建設後 30 年(耐用年数)を経過し老朽化が進んでいる施設は増加の一途をたどっており、その機能確保のため、長寿命化計画を策定し、計画的に施設の改築・更新を行っています。



排水機場の老朽化状況(インペラ腐食)

このような取り組みを進めているところですが、まだまだ治水対策が不十分な本県は、さらに低平地という特有の地形をもつため、大規模な水害がいつ起きてもおかしくない状況にあります。このため、佐賀県においても「水防災意識社会の再構築ビジョン」に基づき積極的に減災のため取り組んでいるところであり、ハード対策を着実に進めるとともに、市町が必要とする水防情報の発信システムの構築等を行い、被害の軽減を図る(減災)ソフト対策を併せて進めています。

昨今は、異常気象により激甚化する災害や、高齢化する社会情勢の変化により大規模災害時における「公助の限界」があらためて認識されているところであり、「自助」「共助」「公助」のバランスの取れた防災・減災対策を確立することが、より重要となっていると考えています。



地域住民との共同点検

佐賀県防災・安全・安心情報配信システム  
**防災ネットあんあん 配信中!**



すい坊くん

## 九州地方治水大会の開催

さて、開催地となります佐賀県では、本年10月28日から11月7日にかけて第22回熱気球世界選手権大会が嘉瀬川河川敷において開催されます。また、今年には日本磁器誕生・有田焼創業400年として、さまざまなイベントも開催されております。

ほかにも佐賀県には、昨年7月、世界文化遺産に登録が決定された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である三重津海軍所跡や吉野ヶ里遺跡等の歴史遺産をはじめ、魅力的な観光資源や特産物がたくさんございます。是非、佐賀県にお越しいただき、佐賀県の魅力を堪能していただきたいと思っております。

皆さまのお越しを心からお待ちしております。



熱気球世界選手権大会（嘉瀬川：佐賀市）



有田焼創業400年（有田町）

# 中部地方治水大会のご案内

平成 28 年 10 月 20 日(木) 13:30 ~  
名古屋市 ウィルあいち  
事務局 愛知県建設部河川課内

今年度の中部地方治水大会の事務局を担当いたします愛知県から、本県の紹介と大会の案内をさせていただきます。

愛知県は日本のほぼ中央に位置し、古来の尾張と三河の 2 国を合わせた地域で、南は太平洋に面し、西は三重県、北は岐阜県と接し、東北は長野県、東は静岡県と接しています。県土は東西約 106km、南北約 94km、面積は 5,170km<sup>2</sup>で国土の約 1.4% を占め、全国で 27 番目の広さです。

この地域を流れる木曾川、庄内川、矢作川、豊川等の大河川により、古くから濃尾平野を始めとする肥沃なデルタ地帯が形成され、太平洋型の温暖な気候と早くから農業用水等の農業基板が整備されたことから農業生産高が高く、工業、農業、物流等広範囲の土地利用が図られ、地域の発展を支える礎となってきました。

また、中小河川は、都市を貫流する都市河川、流域に山地を持たず海拔ゼロメートル以下を流れる低平地河川、あるいは知多半島、渥美半島にみられるような急勾配で河川延長の極端に短い河川等、地域によりその性格が異なります。

低平地が多くそこに都市機能が集積しており、洪水の氾濫区域は県土のおよそ 2 割を占め、その区域内には 300 万人以上の人々が住み 40 兆円を超える資産があります。特に尾張地域は日本で最大の海拔ゼロメートル地帯を抱えている等、治水環境は必ずしも良好ではありません。

このような県土の特徴を有するなか、昭和 34 年 9 月に伊勢湾台風の水害がありました。22 日に発生した超大型の台風 15 号が 26 日に東海地方の西から伊勢湾沿岸を通過し、大雨による河川の氾濫、堤防決壊のほか、かつてないほどの異常な高潮の発生により、各所に甚大な被害が発生しました。この災害により県内で 3,000 人以上の方が亡くなり、2 万戸を

超える住宅が全壊流出しました。

この伊勢湾台風を契機として、本県では堤防や水門等の高潮対策を推進しました。



伊勢湾台風により冠水した新川河口付近(名古屋市港区南陽町)

その後、近年では、平成 12 年の東海豪雨がありました。

9 月 2 日にマリアナ諸島付近で発生した台風 14 号が 12 日 3 時には那覇市の東南東にあり、935hpa と非常に大きな勢力を保ちながらゆっくりとした速度で西に進みました。一方、本州には秋雨前線が停滞し、この前線に向かって台風から暖かく湿った空気が大量に流れ込み、東海地方の大気の状態は非常に不安定な状態になりました。このため、庄内川・新川流域では 11 日未明から記録的な豪雨となり、名古屋地方気象台は 11 日 19 時に時間最大雨量 93mm を記録、11 日未明から 12 日までの総雨量は年間総雨量 1,535mm の 1/3 に及ぶ 567mm となりました。

この記録的な大雨により、新川をはじめ県内河川の 20 ヲ所が破堤、315 ヲ所が越水したほか、排水能力を超える雨水の流入等により県内 72 市町村で浸水被害が生じ、死者 7 名、負傷者 107 名、住宅の全・半壊 174 戸、床上床下浸水 62,478 戸等大きな被害となりました。



新川(名古屋市西区・清須市)



天白川(名古屋市天白区)



平成 20 年 8 月末豪雨では、28 日から 31 日にかけて、日本列島を縦断する形で停滞していた前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、愛知県の至るところで雷雲を発生させ局地的かつ記録的な大雨となりました。特に岡崎市に至っては観測史上 1 位を更新する時間最大雨量 146.5mm という猛烈な降雨を観測しました。この豪雨で死者 2 名、全半壊 6 戸、床上・床下浸水 1 万 3 千戸以上の被害が発生しましたが、そのほとんどが局地的に短時間の降雨を記録した名古屋市、岡崎市、一宮市、豊橋市に集中しました。



豪雨によって破堤した広田川の氾濫状況（幸田町）

平成 23 年 9 月の水害では、19 日から 21 日にかけて台風 15 号により断続的に強い雨が降りました。特に 20 日は、南から湿った空気が入って大気の状態が不安定となり、八田川合流点付近で庄内川は東海豪雨を上回る出水となりました。その影響を受け、八田川の水位が堤防高を超えて越水し、八田川は破堤の危機に瀕しました。あわせて地蔵川等での内水も加わり、八田川、地蔵川等の沿川では大きな浸水被害となりました。



八田川の越水状況（春日井市）

こういった災害から県民の生命財産を守るために緊急的・重点的に河川事業を推進しています。

河川改修は、当面の整備目標を時間雨量 50mm（年超過確率 1/5）対応とし、重点的かつ効率的に、また河川環境にも配慮して進めています。このうち、流域面積が大きく、人口、資産が特に集積する主要河川については、さらに大きな雨量（年超過確率 1/20 ～ 1/30）への対応を進めています。

また、都市化の進展が著しく、早急に治水安全度を向上させることが困難となった新川流域、境川流域においては、昭和 50 年代から総合治水対策として、従来の河川改修を急ぐとともに、流域が従来から有している保水・遊水機能の保全等に努めるために、流域の関係機関と連携して、雨水貯留施設の整備等を進めてきました。平成 18 年に新川流域を、平成 24 年に境川流域を特定都市河川流域に指定し、下水道事業等の流域との連携をさらに強化し、治水安全度の確実な向上に取り組んでいます。

南海トラフ地震とそれによる津波に対するハード対策については、平成 26 年 12 月に公表した「第 3 次あいち地震対策アクションプラン」に基づき、堤防の補強や水門の改築等の耐震対策を引き続き推進していきます。

また、水害が頻発していることを鑑み、整備水準以上の豪雨等が発生した場合にもできる限り被害を軽減するため、住民が自ら身を守る取り組みを支援する等、ソフト対策を合わせて推進しています。



改築中の日光川水閘門（飛鳥村）

さて、愛知県では、2010 年から 3 年ごとに開催している国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2016」の会期が 10 月 23 日（日）までとなっています。テーマは「虹のキャラヴァン サライ 創造する人間の旅 Homo Faber: A Rainbow Caravan」で、先端的な現代アートによる祝祭感あふれるフェスティバルを展開してい

ます。

愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか(長者町会場、栄会場、名古屋駅会場)を始め県内各所に会場が設けられていますので、お時間がありましたら、是非お立ち寄りください。

皆さまのお越しを心からお待ち申し上げます。

# 四国地方治水大会のご案内

平成 28 年 10 月 25 日(火) 13:30 ~  
高知市 高知会館  
高知県土木部河川課

平成 28 年度四国地方治水大会の事務局を担当します高知県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。本県は平成 23 年に「高知県は、ひとつの大家族やき。」を宣言し「高知家」として高知県のファン拡大、および、物産・観光・移住促進等の活動を実施しています。今年度は「高知家には、ポジティブ力がある。」をスローガンとしています。

## 高知県のすがた

本県は四国の南半分を形成しており、県北部は四国山地に沿った急峻な地形で、四国カルスト、笹ヶ峰、梶ヶ森、三嶺等を代表とする景観も優れた山々が連なっています。

南は太平洋に扇状に開かれ多様な海岸線が形成されています。東の室戸岬は特徴的な隆起性地形で、平成 24 年には室戸市がユネスコの世界ジオパークに認定されました。西の足摺岬は足摺宇和海国立公園に指定されています。

山地と海に挟まれた地勢は本県の特徴で、現在、「四国カルストから土佐の大海原へ」をコンセプトに「奥四万十博」として県中西部の地域の自然や食、歴史文化を発信するキャンペーンも実施されています。

## 河川の状況

県内を流れる河川は、一級河川が 4 水系で 396 河川・延長 1,923km、二級河川が 97 水系で 270 河川・延長 1,243km となっています。

一級河川吉野川は本県北部を源流として徳島県に流れる全長 194km の河川です。早明浦ダムは四国総合開発の要として本県に建設された多目的ダムで、四国 4 県に用水を供給し「四国のいのち」と呼ばれています。

県中央東部を流れる一級河川物部川は延長 71km で山間地を急勾配で流下し、下流部に形成された扇状地は古代の土佐国の中心地であり、平安時代の歌人、紀貫之が国司として留まりました。

県中央西部を流れる一級河川仁淀川は水質の良好な全長 124km の清流で、青く映える美しい水面は「仁淀ブルー」と呼ばれ人気を博しています。一方で治水

面では下流部の沖積平野で合流する支川群の流域が極めて低い地形であるため、昔から支川低地の浸水対策が課題となっています。

県西部を流れる一級水系の四万十川は全長 196km で日本最後の清流と呼ばれています。知名度も高く、豊かな自然が残された本県の持つ豊かな自然を象徴する河川です。



四万十川に架かる沈下橋



しじみ漁で賑わう鏡川

県都である高知市街を流れる延長 31km の二級河川鏡川は治水上も極めて重要な河川です。市の水源でもあり、鮎漁、遊泳等住民に親しまれています。本県出身の偉人、坂本龍馬が幼少時に、教師が川での水練を雨天のため中止すると告げたが、龍馬は「雨に降られるも川で泳ぐも濡れるに変わりない」と言い一人、鏡川で泳いだとの話も残っています。

県東部を流れる奈半利川は延長 61km で県内最長



の二級河川です。流域は日本でも屈指の多雨地域でかつ急勾配であることから、昭和 30 年代に魚梁瀬ダム等 3 つの発電ダムが建設され、日本の産業を支えてきました。一方でダム下流では湛水による濁水の長期化が環境面での課題となっており、現在、上流支川からダム下流に河川水をバイパスし濁度を改善する環境対策事業に取り組んでいます。

## 災害の歴史と河川事業

本県の気候は、南側は温暖な海、北側が急峻な山地のため、南風が卓越する春から秋にかけ降雨が多く、さらに台風の襲来も多いことから、山間部で年間降水量が 4,000mm に達する箇所もある等、日本でも有数の多雨地域です。そのため、本県はこれまでに多くの災害を経験してきました。

昭和 45 年 8 月の台風 10 号では、潮位偏差 2.35m と推定される異常な高潮が発生し、県下で 13 名が犠牲となり、床上浸水は 26,001 棟におよびました。本県ではこれを期に高潮対策事業を開始し、高知市を中心に延長 53km の河川堤防整備に取り組みました。この高潮事業が現在も地震高潮対策事業に引き継がれています。

昭和 50 年 8 月の台風 5 号は、県中央部を中心に高知市北部の観測局柿ノ又で 3 時間雨量 312mm を記録する豪雨をもたらしました。これにより仁淀川、鏡川で出水し、山崩れや土石流も続発する大災害となりました。県下の被害は床上浸水 12,564 棟、床下浸水 19,734 棟、77 名が犠牲になりました。

翌年の昭和 51 年 9 月にも台風第 17 号が襲来し県中部や東部を中心に豪雨となりました。高知市で日雨量 524.5mm、総雨量 1,305mm に達し鏡川が破堤、高知市の浸水被害は床上 11,720 棟と、連年の大災害となりました。この連年災害を契機に鏡川の治水計画が大幅に見直され、河川激甚災害対策特別緊急事業による整備が行われました。

平成 10 年には 9 月 24 日から 25 日にかけて秋雨前線により県中部を中心に激しく雨が降り、高知市で 1 時間雨量 129.5mm、日雨量 628.5mm という観測記録を更新する豪雨となりました。県中部では複数の河川が氾濫し、県下の被害状況は、死者 8 名、床上浸水 8,341 棟、被害総額は約 660 億円におよびました。この被害をふまえ本県では高知市東部を

流れる国分川の河川激甚災害対策特別緊急事業に着手し 17km にわたる河川改修を行いました。



平成 10 年高知市東部が水没

平成 13 年 9 月には秋雨前線により 6 日未明から早朝にかけ大月町で時間雨量 110mm を観測する等県西部で豪雨となり、床上浸水 264 棟、床下浸水 540 棟の被害が発生しました。夜半から早朝にかけ、山地崩壊も多発した深刻な状況であったにもかかわらず、犠牲者はでませんでした。これは、地元の強い連携により避難行動要支援者情報が共有され、消防団や区長を中心に人命を優先とする迅速な避難が実施されたためでした。

平成 26 年には台風 12 号によって仁淀川町で累加雨量が 8 月 4 日に 1,000mm を越え、さらに 8 月 10 日に本県に上陸した台風 11 号でも同町で累加雨量 900mm を越える等豪雨が続く、県下各地で被害が発生しました。特に仁淀川支川日下川では延べ 247 戸が、同支川宇治川では 294 戸が浸水したことから、床上浸水被害の解消を目標として、国、県、町村が連携し、両河川で床上浸水対策特別緊急事業を進めています。



平成 26 年宇治川の浸水状況

急峻な地形と多雨地帯である本県にとってダム事業は治水・利水両面で重要な事業であり、現在 2 つのダムを建設中です。施設園芸地帯である芸西村の洪水対策および用水供給を目的とした和食ダムが平成 25 年から、四万十川支川中筋川流域の浸水被害軽減等を目的とした横瀬川ダムが本年度から本体工事に着手しています。



建設の進む和食ダム

浸水対策と並んで、本県の河川事業の喫緊の課題となっているのは、今後 30 年内の発生確率が 70% と言われる南海トラフ地震対策です。発生すれば強い揺れと巨大な津波の発生が予測されており、本県では平成 20 年から、地震高潮対策事業として人口の集中する高知市市街地を中心に液状化対策や排水機場の耐震対策を推進しています。



堤防耐震工事状況

げる技術がありますが、本県でこの技術によるトマト栽培が始まる契機となったのは、昭和 45 年の壊滅的な高潮災害によって農地が塩害を受けたことに始まっています。昔から、「高知家には、ポジティブ力がある。」のです。

大会が開催される 10 月には海の幸として高知を代表する「鯉」、「うつぼ(海のギャングとも呼ばれますが高知家では単なる食材です)」、「ウルメイワシ」、「イセエビ」等が旬を迎えます。高知県は施設園芸も盛んで、高糖度のトマトを始め、産地ならではの新鮮な野菜が味わえます。山の幸では秋に楽しめる珍しい筍「四方竹」、果物では巨大な柑橘「文旦」や「新高梨」も収穫の時期です。

多くの皆さまに「高知家」にお越しいただき、秋の味覚も存分に楽しんでいただければと思います。

## 結びに

豊かで美しくも時に激しい高知の自然ですが、本県ではこの自然と向き合い文化と歴史を育んできました。例えばトマト栽培で水分調整によつての糖度を上

# 北陸地区治水大会のご案内

平成 28 年 10 月 26 日(水) 13:10 ~  
富山市 富山第一ホテル 3 階 白鳳の間  
事務局：富山県土木部河川課内

平成 28 年度の北陸地区治水大会の事務局を担当します富山県から本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

## 富山県のすがた

富山県は、南北にのびる日本列島の中心、本州の中央北部に位置し、東は新潟県と長野県、南は岐阜県、西は石川県に隣接しています。

本県は、三方を急峻な山々にかこまれ、深い湾を抱くように平野が広がっており、富山市を中心に半径 50km というまとまりのよい地形である一方、3,000m 級の山々が連なる立山連峰から推進 1,000m を越える富山湾に至るまで、高低差 4,000m のダイナミックで変化に富んだ地形を有しており、植生自然比率本州一が示すように、美しく豊かな自然環境に恵まれ、四季の移り変わりが鮮明で、多種多様な動植物が見られます。また、天然の巨大ダムともいえる山々からは、1 年を通じて豊かできれいな水が生まれ、水力発電、各種用水など多目的に利用されており、暮らしや産業を支える重要な資源となっています。

このような世界的に見ても稀有な景観・地形が評価され、平成 26 年 10 月に、富山湾は、フランス・モンサンミッシェル湾、ベトナム・ハロン湾などの世界遺産に選定されている湾や、アメリカ・サンフランシスコ湾などの世界の名立たる湾と並び、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟しました。

さらに、富山県は、その豊富で清らかな水を活かした米どころとしても知られ、良質米として評価の高いコシヒカリをはじめ、富山オリジナルの早生品種「てんたかく」や晩生品種「てんこもり」が生産されています。チューリップ球根の出荷量が日本一の産地でもあり、伝統ある定置網漁法による漁業も盛んです。また、質の高い労働力、豊富な電力と水、充実した物産・交通網、ものづくりの伝統、日本海側屈指の工業集積など優れた産業基盤があります。「くすりの富山」として全国に知られる医薬品産業のさらなる発展や新たな成長産業の育成・振興により、「ものづくり県」として一層の飛躍を目指しています。



海越しの立山連峰

## 富山県の河川の現状及び取組

富山県には、一級河川 5 水系 216 河川、二級水系 30 水系 101 河川が流れており、その全延長は 1,649m に及び、そのうち 1,481km を県が管理しています。県管理河川で改修が必要な延長は 743.8km であり、うち 417.5km (整備率 56.1%) の整備が完了しています(平成 28 年 4 月 1 日現在)。

3,000m 級の北アルプスや周囲の山々から一気に富山湾へと注ぐ富山の河川は、全国的にみてもまれな急流となっており、豊かな水資源に恵まれている一方で、古くから急流河川の氾濫による水害に悩まされてきました。度重なる水害から暮らしを守るため、戦国時代から石垣を築いたり、河川改修工事を行うなど、治水が富山を治めるための最大の課題となっていました。明治 16 年(1883)に富山県が石川県から分県したのも、治水事業がきっかけで、特にかつて大災害を引き起こした常願寺川などの一級河川の治水・砂防工事をはじめ、県内各地では長年にわたって河川工事が進められてきました。

近年では、局地的な豪雨が頻発しており、県内の時間雨量 50mm 以上の降雨発生回数は、昭和 61 年から平成 7 年の平均 0.9 回 / 年に対し、平成 18 年から平成 27 年は平均 2.7 回 / 年と、約 3 倍に増加し、中小河川において多くの浸水被害が発生しています。

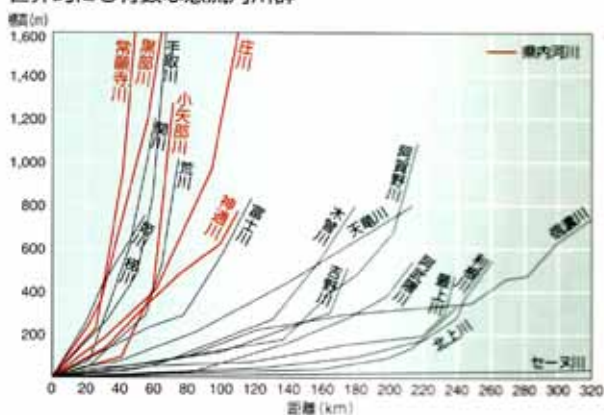


特に平成 20 年には南砺市、平成 26 年には魚津市において記録的な集中豪雨に見舞われ、住宅の浸水被害や土砂災害など、県民の暮らしに直結する被害が発生しました。

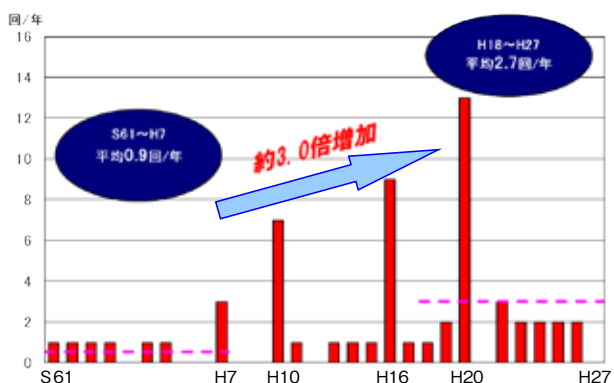
このため、本県では、各河川において、堤防の強化、川幅の拡幅、放水路の整備などを計画的に実施し、安心して安全な川づくりを進めています。

また、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出する「多自然川づくり」を推進しています。

世界的にも有数な急流河川群



県内の時間雨量 50mm 以上の降雨発生回数



### 北陸地区治水大会の開催

さて、隔年で開催している北陸地区治水大会につきましては、今年度は 10 月 26 日(水)に富山市において開催することになります。

富山市は、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を核に、人と地球環境に優しいまちづくりを

進めており、平成 20 年度には全国で 13 の「環境モデル都市」の 1 都市に、平成 23 年度には全国で 11 の「環境未来都市」の 1 都市に選定されています。そのような取組も評価され、本年 5 月 15 日、16 日には、富山市において G7 環境大臣会合が開催されました。市内中心部は路面電車が走り、特に LRT(ライトレールトランジット)と呼ばれる近代的なデザインの電車が走る風景はヨーロッパの町並みを髣髴とさせます。会場となる富山第一ホテルは路面電車の停留所からは若干距離がありますが、もしお時間があるようでしたら、是非ご乗車いただければと思います。

平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業に伴い、東京～富山間が最短 2 時間 8 分で結ばれ、全国の皆様にもこれまで以上に富山を身近に感じていただけているものと思っております。本県は、先に述べました立山連峰や富山湾などの魅力的な自然景観の他にも、「天然のいけす」とも称される富山湾で獲れるシロエビ、ホタルイカ、ブリといった海の幸も豊富であり、来県された折には是非ご賞味いただければ、と思います。

最後になりますが、皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。



街中を走る路面電車